

2012年度
NEC森の人づくり講座（第24期）
実施報告書

平成24年9月14日（金）～9月17日（月）

Aコース オークヴィレッジ／森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズスクール

応募状況	Aコース		Bコース		合計
	現役生	OB	現役生	OB	
エントリー数	10	0	27	4	41
参加者数	10	0	10	4	24

主催：公益社団法人 日本環境教育フォーラム

協賛：日本電気株式会社

プログラム運営：森林たくみ塾／財団法人キープ協会

目次

Aコース：オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町)	1
■ 講座のねらい	1
■ スケジュール	2
■ プログラムの報告	4
1日目 出逢い ～知識を入れる器づくり	4
2日目 森と私のつながり ～体験を五感で感じる	6
3日目 森と暮らしのつながり ～手を動かして考える	8
4日目 次につなげるもの ～自分と対話する	10
■ Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(24期生)の感想です。	11
Bコース：キープ・フォレスターズスクール(山梨県北杜市高根町清里)	13
■ 講座のねらい	13
■ スケジュール	14
■ プログラム報告	16
<1日目>	16
<2日目>	17
<3日目>	18
<4日目>	20
■ Bコース:キープ・フォレスターズスクール受講生(24期生)の感想です。	21

Aコース： オークヴィレッジ／森林たくみ塾(岐阜県高山市清見町)

■ 講座のねらい

- 環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」としての「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを実感すること。
- 森との関わりから、ポスト 3.11 の復興と暮らし方を考える。

■ 講座中に伝えたいこと

- ① 知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。
- ② 地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。
- ③ その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。
- ④ 一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。
- ⑤ そのために、「人の環＝人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。
- ⑥ 行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。
- ⑦ ポスト 3.11 の暮らし方を考える、その基礎は「緑の国から」。

■ そのために大切にしたいこと

- ① 蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
- ② 分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じることに。
- ③ 実践を通して「手応え」を感じることに。

■ スケジュール

1日目 9月 14日(金) 出逢い ～知識を入れる器づくり

13:30 受付開始
14:00 開講式／オリエンテーション
14:40 実技「森づくり・導入編」KYTで危険予知～まずは伐ってみよう
17:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか？」まとめ
18:00 夕食
19:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか？」発表
19:30 小講義「日本の森を知る。」
20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:00 「森人大交流会」

2日目 9月 15日(日) 森と私のつながり ～体験を五感で感じる

07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義
「ミクロの視点、マクロの視点。」
10:00 実技「森づくり・実践編(前編)」
12:00 昼食(お弁当)
13:00 実技「森づくり・実践編(後編)」
16:30 小講義「手を掛けて森を育てる。」
18:00 夕食
19:00 小講義「復興支援としての森づくり。」
20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:00 トークセッション

3日目 9月 16日(月) 森と私のつながり ～手を動かして考える

07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:15 実技「木を使うことの大切さ。」
10:00 実技「森のモノづくり。」
12:00 昼食
13:00 つづき
14:00 小講義「震災後に再認識する、森と人との付き合い。」
15:00 見学「オークヴィレッジに見る木のモノづくり。」
17:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる。」
18:00 夕食
19:15 特別講座「NPO 森は海の恋人・畠山信さん。」
20:15 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:00 森人大交流会

4日目 9月 17 日(火) 次につなげるもの ～自分と対話する

- 07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って。」
09:30 苗木配布「どんぐりの里親で、被災地復興に貢献。」
10:00 実技「ソロ ～たった一人でふり返り。」
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式
14:30 プログラム終了

■ プログラムの報告

1 日目 出逢い ～知識を入れる器づくり

◆飛驒に集合

メーリングリストを活用して参加前から交流を促した成果があり、バスの移動中から和気あいあいとした雰囲気だった様子。高山に到着した時には既にハイテンションの学生たち。どんな学生たちが集まってきたのだろう。今回集った学生たちとの交流が楽しみだ。

◆開校式



森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「この講座は、楽しいことを深く学ぶ4日間。受け身ではなく参加型の講座です。失敗してもいい。失敗した時は、くよくよせずに、それをどうやって取り返すかを考えよう。」

この4日間で「腑に落とし」、「五臓六腑」に染み渡るような学びを！

◆実技『森づくり・導入編』 KYT で危険予知～まずは伐って見よう



笹を刈るための道具の安全な使い方についての説明をしたあと、さっそく2チームに分かれてまずやってみる。

「とりあえずやってみてください。」「やりながら感じた疑問や感想などは覚えておいてくださいね。あとで書きだしてもらいます。」

しばらく作業を進めてから、質問してみる。

「なぜササを刈っているの？」

⇒「やってみて言われたから。」「邪魔だからかなあ・・・？」

「なぜ邪魔なの？」 ⇒「・・・」

スタッフは聞き役に徹して、答えは与えない。



「もっと楽にできる工夫をしたらどう？」 ⇒「楽に？う～ん・・・？」
悩むがわからない。

「こうやれば、体をかがめず楽にできるよ。」 ⇒「なるほど～！」
今、自分が何をしているかを意識する。



途中でチームを集めて聞いてみる。

「今まで何をやった？」

⇒「ササを刈った。」「ツルを切った。」「ササを運んだ。」「・・・」

「バラバラに作業しているけど、ちょっと話し合いをしてみたら？」

⇒「どの方向に作業を進めていこうか？」

「ササを刈ったあとを美しくしよう！」

「どこにササを集めようか？」

話し合いの中で、行動を決め始めた。実践の中で、個人プレイよりチームプレイの大切さを学ぶ。

◆グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



森の手入れで感じたことを書き出してみる。どんな作業だったか？何のためにやったのか？なぜやったのか？一人ひとり書きだしたものを、グループごとにまとめてみる。「自分はそんな役目じゃない！という人、ぜひリーダーをやって！」と言ったら、積極的に手が上がった。何よりもやって見る事が大切。失敗してもみんなが受け入れてくれる。



ササの刈り方は？ササを刈る意味は？効率的な作業方法はないか？健康な森とは？腐った木は切ったほうがいいのか？「考えながら作業して」といわれたが、何を考えればいいのかわからなかった。「体験してから知る」と疑問が生まれるので、学び方としてよい。作業を終えたら風通しが良くなった。ササを刈ったら地形がわかった。…様々な意見が出てきた。

人が違えば見ているところが違う。それを共有し合う事も大切。学校教育のように答えを教えて暗記するだけが学びではない。まずやってみて疑問を持つ学び方もある。

◆小講義『日本の森を知る』



地球史を1年間に置き換えると、人類の誕生は12月31日、産業革命は23時59分58秒。そうやって見ると、いかに現代人が化石燃料を浪費して環境を破壊しているかが実感できる。事実を実感できる情報に置き換えて説明すると、意外に納得できるのです。

◆森人大交流会



一日目の活動を終え、ここでようやく自己紹介の時間となる。環境やキャンプに関わる活動を普段からやっている人が多く、この講座に参加した理由などを熱く語ってくれる学生たち。全員が話し終えた時には、日付が変わっていた。

2日目 森と私のつながり ～体験を五感で感じる

◆小講義「ミクロの視点・マクロの視点」

昨日の森の手入れでは、「木を伐る・ササを刈る」という目先のことしか見えていなかった。ものごとに取り組むときには、目先のことばかりにとらわれがちだけど、常にミクロな視点とマクロな視点を持つことが大切です。森づくりも同じで、目の前の森を見るだけでなく、地域・日本・地球規模で森を見る目も必要だ。

◆実技「森づくり・実践編」



何の説明もせずに行った昨日の森づくりに続き、今日は一日自分たちで計画を立てて森づくりに取り組む。まず、チームごとに作戦会議。「今日はどんな作業をするの？」⇒「目標は光を入れることです。」さっそく作業を開始する。昨日の作業とは打って変わって、手際の良さとチームの連携の良さが際立つ。

今日一日の森の手入れを終え、みんなに感想を聞いてみる。「まず体験してみてから学ぶやり方もありだと思った。」「環境の勉強を今までしてきたが、今回実際の森の手入れができた。もっとやってみたい!」「テレビで見たプロのように、将来の森を考えて、躊躇なく木を切れるようになりたい!」

◆小講義「手を掛けて森を育てる」



歩く植物図鑑・ジリさんの講座では、西洋の歴史・日本の歴史から森と人との関わりを読み解く。

初日に「木を伐るのがかわいそう」と言っていた学生も、「森を破壊すること」「利用しながら森を守り育てる」ことの違いが解ってきたようだ。ネイティブアメリカンの考え方(7世代先のことを考えて今の行動を決めること)の大切さも理解してくれたようだ。

◆小講義「復興支援としての森づくり」

「緑の堤防」を提唱する宮脇昭さんの活動、NPO ドングリの会「緑の国プロジェクト」の活動や、「NPO 森は海の恋人」の取り組みなど、東北の震災復興を森づくりからアプローチする様々な活動を紹介。自分たちが取り組んできた森づくりという作業が、広がりを持って見えてきた。

◆小講義「企業のCSR活動について」

企業が利益のみを追求していった結果、社会から離れてしまった。企業も社会の一員のはず、企業市民を目指して当然だろう。企業の利益を社会に還元するために寄付をして社会貢献することから始まった。でも、

これだけでは、利益が上がらなかつたら寄付できないよね。企業は社会の中で必要とされる課題に積極的に関わるべきで、NEC は後継者育成を担う活動は大事だと考えている。だからこの講座を支援してくれている。

社会的課題があるから、それを解決するために活動する(そういう会社を作る)。活動は継続的にやらなければいけない。そのための仕組みとして、会社(組織)がある。社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャルビジネスが、これからは必要となる。

3日目 森と暮らしのつながり ～手を動かして考える

◆実技「木を使うことの大切さ」



森の手入れで伐り出した木を素材に、箸を作る一日。
まずは丸太を鉋で割ってゆく。割った断面には、木の成長を見ることが出来る。真っ直ぐに見える木でも、5年目ぐらいまでの年輪は曲がっている。「苦労して成長したんだな～」との感想も聞こえる。割り方によって柁目だったり板目だったりする木目。それぞれに性質が違い用途も違うことを知る。

◆実技「森のモノづくり」



丸太を割って作った材料は、表面がザラザラ・デコボコ。カンナで削っていくと、滑らかな表面が現れる。同時に、シュルシュルっと小気味良い音とともに、綺麗なカンナくずが出てくる。

削るのが楽しくって夢中に加工をする学生たち。気づくと箸には細すぎるほどに削ってしまう者も。

箸の長さは一咫半(ひとあたはん)。身度尺というものを知ると、道具と身体の関係性が見えてくる。

◆小講義「震災後に再認識する、森と人との付き合い」



江戸時代の人々の暮らしや、明治期まで山で暮らしていたサンカと呼ばれる人々の中に、自然の素材やエネルギーを巧みに利用してきた暮らしぶりを見る。また、人々が自然に対して畏敬の念を持って接してきた事を知る。

ポスト 3.11 の暮らし方を探る上で、こうした人達の暮らしぶり、思想に学ぶことは多い。

◆見学『オークヴィレッジに見る木のモノづくり』



森づくりからモノづくりまでを経験してきた目で、プロのモノづくりを拝見。椅子、テーブル、それぞれに要求される木材は異なる。素材の特性を見ながら適材適所に使う知恵は、長く使えるものを作るための基本。

オークヴィレッジの木材利用やアロマ抽出を通して、資源・エネルギーのカスケード利用が重要だということを知る。

◆小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」

「原則」には、常に「例外」がある。プロ(技術、知識と経験)と素人(既成概念にとらわれない)の力を合わせると、今までできなかったこともできる。

この講座で得たものを、行動に移すためのエッセンスを伝える。

◆特別講座『NPO 森は海の恋人・畠山信さん』



「NPO 森は海の恋人」副理事・畠山信さんと KEEP の三者を skype でつなぎ、学生たちに書き出してもらった質問用紙を元に話をすすめた。

津波による大きな被害を受けたにもかかわらず、「海は憎くない。これからも海とともに生きていく。」という考えに、誰もが感銘をうけた。

「直感・信念に信じて突き進むと物事は実現する。」畠山さんとの出逢いは、森づくりのAコース・環境教育のBコース、それぞれの学生たちの心に大きな物を残したようだ。

4日目 次につなげるもの ～自分と対話する

◆スライドショー『4日間をふり返って』

これまでの3泊4日の活動を、スライドとナレーションでふり返る。

「これやったの、昨日だったんだ～」昨日の出来事もまるで遠い昔の記憶のよう。

NPO ドングリの会・「緑の国のプロジェクト」を説明する。復興支援の方法には苗を育てる、資金援助をするなどいろいろある。森の機能だけでなく、森との精神的なつながりがもっと必要となっている。みんなも苗木を育てながら、森への思いを馳せてほしい。

◆実技『ソロ～たった一人でふり返り』



昼食までの2時間ほどを一人だけで過ごす時間。これまで仲間とともに過ごしてきたが、自らの中に落としこむために必要な時間。手入れをした森の中で過ごした人や、川へ行った人もいた。なかなか考えがまとまらず、時間ぎりぎりまで感想を書いていた。

◆全体のふり返り

午前中の一人でのふり返りを、全体で共有する時間。

「人との出逢いに感謝。」「自分が変わるきっかけとなった。」「大学では得られない森との関わりを得た。」「環境教育の本質がわかった。」限られた時間では話さきれないくらい、この4日間で得たものは大きい。

◆閉校式



スタッフからの言葉。

「この講座を受講して、環境系の仕事についてほしいわけではありません。企業に就職しても、そこで環境との関わりを意識できるような企業人になってほしい。」「人生でへこたれることはあるけれど、たいしたことはない。時間が解決する悩みもある。周囲の状況が変わって解決することもあるから、周りをよく見ておくこと。」「環境教育が当たり前の世の中になって、うらやましい。一方で、環境教育という言葉が独り歩きしている面もある。環境教育って何なのか、その本質をわきまえた上で、この講座で得たものを今後の人生に生かしてほしい。」

■ Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾受講生(24期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

NE(芝浦工業大学)

「失敗してもいいんだ。」佃さんが個性豊かな森人たちに最初にプレゼントをしてくれた言葉です。現在の社会では失敗を恐れるあまり、ものごとに積極的に取り組めていないと私は思います。そんなプレッシャーを佃さんに一掃していただき、森人たちは元気に楽しく積極的に講座に参加することができました。今、今回の講座で失敗したことはなんだろうと考えています。が、失敗をいっぱいしているはずなのにを見つけるのが難しい気がします。失敗を受け取る柔軟性が足りないのかな。失敗を見つけることができなかつたのが失敗かな。「失敗してもいいんだ。それが成功への近道だから。」

ES(金沢工業大学)

この講座で私が獲得したものは、友だちである。それも歳の差が関係ない友だちである。今までは、先輩・後輩などのように、歳の差がある人とは上下関係が存在していた。大学では先輩に気を使い、後輩に気を使われ、フラットな関係があるのは同年代だけだった。そこに感じていた違和感が今回の講座ではなく、とても楽しかった。周りもそれを感じていると思う。良い人間関係はそういったフラットな関係だ。人間全てそうであればいいとは思わないが、今の日本に足りないものだと思う。歳の差があってフラットな関係を築くのはなかなか難しいのに、それがたった3日で出来た今回はすごいと思う。今回の出逢いを大事に大事にしていきたい。

RN(法政大学)

この講座で一番強く感じたのは、実際に行動に移し体験することの大切さです。高山に到着するとすぐ山に入り、説明や理屈より先にクマザサの伐採作業をしました。その後、自分たちの疑問点を整理してからレクチャーを受けることで、学習より先に体験して感じ考えることでより吸収できるものが増えるようになりました。これまでこのような講座や森づくりは参加したことがなかったのですが、体験の伴わない講義だけの学びはあまり説得力を持ちませんし、環境を学んでいる学生としてはどンドンフィールドに出ることが重要と感じました。志の高い学生と出逢うことで私自身影響を受けましたし、知らない活動にも目を向ける良いきっかけになったと思います。

YO(フェリス女学院大学)

この講座を通して自分が獲得したのものとして一番大きいと感じるのは「人との出逢い」です。同じ分野に興味を持つ人達と体験活動をし意見を交換することで、とてもたくさんの新しい視点を獲得することができました。またこの講座を通し、体験し気づくということの大切さに気がつけたことも大きな収穫だと感じます。勉強して得た文字としてだけの知識が、体験してみる事で自分の感覚が加わると知恩に変わると感じました。知識だけでは見えないものや分からないことが、体験してみるとたくさんあるということに気づくことができました。体験することで感じた自分の素直な気持ちや考えを大切にすることで、今後の自分と自然の関わり方を考えるヒントを得ることができました。

今回この講座を通して私が獲得したものは、「素晴らしい仲間」、「人の話を大切にすること」、「考えるよりまず行動すること」、「感じることの大切さ」です。このような講座は今回が初めてで、一体どんな人がいるのかと最初はすごく不安でしたが、同期の10人全員が人間的にもすごく大好きになれる人たちばかりで、OBOGの方々、スタッフの方々全員が優しく、面白くて、今回の出逢いにすごく感謝しています。また、人の話を正面から受け止めて聞くことを最近忘れていたという気がしますが、自然の中でみんなが学ぼうという姿勢が強かったので、私も気づいたら話を聞きながらメモを取ったり深く頷いていたりしました。そして今回の講座でいろいろな説明より前にまず行動してみるということで、疑問が生まれ、これが学びたい、という気持ちになるのだと実感しました。今回の講座は、確実に自分の中の何かを変えてくれたと思います。これを機に、環境活動についてもっと考えてみようと思いました。

Bコース： キープ・フォレスターズスクール(山梨県北杜市高根町清里)



■ 講座のねらい

「つなぐ～インタープリテーションから学ぶ」

環境教育に求められている役割は、異なるものを”つなぐ”こと。

人と自然、人と人をつなぐ「インタープリテーション」について学びながら、

「自然との」「他者との」「自分との」より良いコミュニケーションのあり方を考えます。

- ①環境教育について学ぶ(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)
- ②インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
- ③自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
- ④全国の仲間とのネットワークを作る
- ⑤自分自身のねらいを達成する。

■そのために大切にしたいこと

- ①体験から学ぶこと
- ②お互いから学ぶこと
- ③楽しみながら学ぶこと

■ スケジュール

1日目 9月14日(金)

- 14:30 オープニング(開講式)
- 14:50 つなぐ①お互いを知る・清里を知る /アイスブレイキング
- 16:20 生活案内
- 16:25 休憩・チェックイン
- 16:50 つなぐ①お互いを知る・清里を知る /自己紹介と目的の共有化
- 1)スライド「キープ協会紹介」
 - 2)自己紹介シート作り
 - 3)講座のねらい
- 18:05 夕食
- 19:20 講義:環境教育概論(関根)
- 20:10 1日を整理する時間(ログブックの記入)
- 20:30 終了
- 以降、自由交流会
-

2日目 9月15日(土)

- 07:00 つなぐ①お互いを知る・清里を知る/朝のお散歩
- 08:00 朝食
- 09:00 つなぐ②キープ協会を知る/キープ協会内施設見学
- 10:55 休憩
- 11:05 つなぐ③生物多様性を知る/ヤマネを知る、ヤマネ保護の取り組みを知る
- ・ガイドウォーク(午後の実習の説明)
 - ・やまねミュージアム見学
- 12:30 昼食
- 13:30 つなぐ③生物多様性を知る/ヤマネ保護の取り組みに関わる実習
- ・アニマルパスウェイにアクセスするヤマネのための通る道を作る
 - ・3グループに分かれて作業
- 16:35 休憩、入浴
- 18:00 夕食
- 19:15 一日を整理する時間/ふりかえり&わかちあい
- 19:55 畠山さん(NPO 法人森は海の恋人)について、CONE リーダー登録について
- 20:10 終了
- 20:25 オプション: インタープリターの部屋(スタッフへの Q&A)

21:20 以降、自由交流会

3日目 9月16日(日)

08:00 朝食
09:00 つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ／インタープリテーションの体験
10:45 休憩
11:00 つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ / 講義: インタープリテーション概論①
11:30 つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ / 実習: 環境教育プログラムの実施 & 相互評価 / オリエンテーション
12:00 実習: 環境教育プログラムの実施 & 相互評価 / 準備
12:45 昼食
13:15 引き続き 実習準備
14:45 つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ / 実習: 環境教育プログラムの実施 & 相互評価 / 実施と相互評価
17:00 休憩
17:15 つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ / 実習: 環境教育プログラムの実施 & 相互評価 / ふりかえり
18:10 夕食
19:15 つなぐ⑤IT でつなぐ
 畠山信さん(NPO 法人森は海の恋人)とAコース(オークヴィレッジ / 森林たくみ塾)とskypeで通信
20:30 休憩
20:45 ナイトハイク
21:45 一日を整理する時間
22:00 終了
 以降、自由交流会

4日目 / 9月17日(月)

08:00 朝食、チェックアウト
09:30 補いの講義
10:30 休憩
10:45 つなぐ⑥未来につなぐ / 講座のふりかえり・わかちあい
12:05 昼食
13:00 クロージング(閉講式)
14:00 終了、解散

■ プログラム報告

<1日目>



オープニング(開講式)

秋も近づき涼しくなってきた清里に、24期生10名とOB生4名が集まった。名札づくりや会話をする参加者からも笑い声も聞こえ、とても良い雰囲気の中でNECの森の人づくり講座がスタートした。



つなぐ①お互いを知る・清里を知る／アイスブレイキング

まずは緊張をほぐしながらお互いを知る時間。気持ちのいい秋空の元で、体を動かしながらゲームを実施。和気藹々とした雰囲気の中で時間が流れ仲良くなるのも時間の問題だったようですすぐに打ち解けていた。



つなぐ①お互いを知る・清里を知る / 自己紹介と目的の共有化

自己紹介シートを作成。改めて今回の講座のねらい、参加者自身のねらいを整理する。1人1人のねらいは違えど、環境教育やインタープリテーションについて学びたい想いは一緒のようだ。お互いのことを知りながら刺激しあい、参加者自身のねらいを整理する時間になったようだ。



講義:環境教育概論

最初の講義は『環境教育とは何か?』。定義を改めて再確認する時間。環境教育という定義を改めて整理することができたようだ。この概念をもとにインタープリテーション・コミュニケーションを考えていく4日間がスタートした。

<2日目>



つなぐ①お互いを知る・清里を知る /朝のお散歩

まだ肌寒く感じる青空の朝。ブラジルからの研修生が案内をしてくれた。ブラジルの文化に触れたりクローバーの起き始める姿を観察しながら、森の中で気持ちのいい時間を過ごした。文化を超えて自然を楽しむ時間を過ごすことができた。



つなぐ②キープ協会を知る /キープ協会内施設見学

キープ協会の各施設を見学する時間。今回は聖アンデレ協会とポールラッシュ記念センターへ。各施設を見学しながらキープ協会創設者ポールラッシュ博士の思い、キープ協会の歴史などに触れた。



つなぐ③生物多様性を知る /ヤマネを知る・ヤマネ保護の取り組みを知る

森の中を歩きヤマネについて学びながらアニマルパスウェイを見学に行く時間。研究の社会化の努力がこのアニマルパスウェイ。建設会社と研究者が協働から生まれた取り組み。「ヤマネを守ることは森を守ること、森を守ることはみんなを守ること」という研究者の思いに触れた瞬間だった。



つなぐ③生物多様性を知る /ヤマネ保護の取り組みに関わる実習

この時間はただ学んだことをそのままにするのではなく、実践する時間。実際に動物保護活動を行いながら共同作業におけるコミュニケーションも学んでいく。アニマルパスウェイの支柱につながるヤマネのための道を3グループに別れて作成する。各班ごとに相談しながら作業を進め、「協働」する楽しさや難しさを実感する時間になった。作業終了後は、それぞれの班で行った作業の成果を確認。形に残る作業を終えて、お互いに達成感を感じていた。

<3日目>



つなぐ④自然と人・人と人をつなぐ / インタープリテーションの体験
インタープリテーションを体験する時間。森の中で自然解説を一方向的に受けるのではなく、参加者主体型のプログラムを体験する。葉っぱ一枚からも感じることは人それぞれ、五感を通して葉っぱを見るだけでまるで森の美術館が出来上がったようだった。お互いの発見や気づきを共有することで、新しい自然の見方、楽しみ方を知ったようだ。



講義: インタープリテーション概論①

先の体験を踏まえて、インタープリテーションを学ぶ。どうすれば相手により良く伝わるのか、定義や手法、インタープリテーションが伝えることなどを学んだ。次の時間は、いよいよ受講生がインタープリテーションを実践していく時間へと進んで行く。



実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価/準備

受講生がゼロからオリジナルのプログラムを作って行く。考えても始まらない。まずは外に出て自然を感じることからスタートする。自分達が心動いたものは何か。伝えたいことは何か。グループの仲間と真剣に話し合いながら議論を重ねていく。



実習: 環境教育プログラムの実施&相互評価/実施と相互評価

ついにインタープリターになる時間がやってきた。直前まで時間をかけて準備をしたプログラムをお互いに実施していく。どのプログラムも思考を凝らしたもので、お互いに楽しく発表し合えた。実施後は、お互いに感想や改善点をメモに書くなどフィードバックも行った。



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価／ふりかえり

メモに書いてもらった参加者からのフィードバックをもとに、「もう一度プログラムを実施するなら」と仮定してグループ内で話し合っていく。具体的な改善策はどうしたらいいか。話し合う中で、グループ内で起きていた自分のコミュニケーションについても反省していく。プログラム作り同様に真剣な話し合いになっていた。



つなぐ⑤IT でつなぐ

同時進行で開催しているAコース(オークヴィレッジ/森林たくみ塾)とNPO法人森は海の恋人の畠山さんとスカイプを通じた三者交流を行った。今回はNPO法人森は海の恋人の震災復興への取り組みを畠山さんに伺った。被災地の現状。そしてこれからも震災の復興は続いて行くことなどをお話いただいた。自分達も継続した震災復興これからも続けていく必要があることを改めて感じる時間だった。



ナイトハイク

講座最後の夜は、夜の森を味わうナイトハイクの時間。夜の森だからこそ味わえる時間を感じる。最後は広いグラウンドでシートを敷いて1人静かに寝ころび過ごす。自分と自然、自分と向き合いこの3日間をふり返り、これからの自分を考える時間になった。

<4日目>



補いの講義

最終日。これまでの講義や実習を整理して自分のものにする時間。これまでの時間を通して大事なことは「学びから行動へ移すこと」。そして「自分が楽しいと思ったことを続けていくこと」。



つなぐ⑥未来につなぐ / 講座のふりかえり・わかちあい

まずは1人になってこの4日間をふり返る。1人の時間を過ごすことで様々な体験を思い出し再度自分に落とし込める。そして、その学びをお互いに共有することでそこからさまざまな発見や思いが見つけられたようだ。



クロージング(閉講式)

4日間の講座もこれにて終了。参加者から『友達じゃなく仲間だと思う、せっかくできたつながりを大切にしていきたい』や『自分が変われば世界が変わる、学びを行動にしたい』との言葉が。濃い時間を過ごした14名。本音で話し合い、お互いを刺激し合えるこのつながりを大切に学びを行動に移して行って欲しい。

■ Bコース:キープ・フォレストースクール受講生(24期生)の感想です。

※文章の一部を抜粋、加筆をしています。

「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

EI(大妻女子大学)

インタープリテーションを学び、たくさんの人に環境に対して興味を持ってもらえるような能力を身につけたい、自分に自信を持ち、考えや意見を人に伝えられる人間になりたいと思い NEC 森の人づくり講座に参加しました。毎日が発見の連続で、自然、人を通して環境教育の重要性を学ぶことができたと思います。

この講座を通して良かったことは、将来を真剣に語れる仲間ができたことです。同じ環境教育に興味を持つ仲間が集まることで、悩みや思いを打ち明けられました。3日目のプログラムの反省会ではメンバーと自分に対するフィードバックをしました。自分のマイナス面、プラス面を言ってもらうことで自分自身について考えることができました。真剣に自分と向き合ったことがないので良い体験ができたと思います。

YK(人間環境大学)

講座内では1日の振り返りの時間や自由交流会など幾度となくコミュニケーションをとる場面がありました。その度に、どうすれば相手に自分の気持ちを「伝える」ことができるのかと悩み、より良いコミュニケーションを目指し試行錯誤を繰り返しました。コミュニケーションは相互の理解を深める為に必要なものであり、今回メンバーやスタッフの方々全員がそれぞれ真剣に私と向き合い話を聴いてくださったその暖かい姿勢を忘れず、今後インタープリテーションそのものであるコミュニケーションについて深めていきたいと思います。

KT(長野大学)

「環境教育」と聞くと、「難しそう」「専門知識を持った人がやるもの」と身構えてしまう人がいるかもしれませんが、事実、大学でこの方面の研究室に所属している私でもそうでした。環境教育をある程度知っていたために、講座開始当初は知識が邪魔して素直に活動をするのができなかったのです。しかし、そこは「つながり」が生まれると評判の講座。スタッフの方や仲間の助けを借り、次第に進んで活動ができるようになりました。「言ったと伝えたは違う」、講座最終日にスタッフの方が言われました。これを私に当てはめるならば、「知っていると理解したは違う」となります。今回の講座を経て、一つ私の角が取れた気がしています。

HI(東京学芸)

この4日間の講義の中で、3人でチームとなりインタープリテーションのプログラムを作った際、“環境教育において、コミュニケーションが必要不可欠”ということを実感した。私は人の話を聞くことが苦手だが、相手の目を見てちゃんと聞くということを意識することで、普段よりも相手の考えを受け取ることが出来たと思う。チームの2人がいないとプログラム作りは出来なかったと思うし、プログラム参加者の皆も積極的に取り組んでくれたので“環境教育は1人ではなく皆で行うもの”ということも感じる事が出来た。

また“人は自然の中で心を開くことが出来る”という講義の中での言葉が心に残っている。「自然体験をすることで、自然が好きになるような子をたくさん育てたい。自然が好きになるきっかけ作りをしたい。」と思うようになった。

RO(桜美林大学)

私は、この講座で初めて環境教育という分野に触れ、環境教育というものが環境問題の解決にどう影響していくのか最初はあまり想像することができませんでした。しかしこの講座の4日間で、自ら気づき、まず意識から変えようとする環境教育こそ、環境問題解決の根底にあり、重要な役割を持っているということ身を以て感じることができました。

このような縁に恵まれた環境で、教育をすることがとても重要であると感じました。心を開いた状態だから、何か新しいことに気づいたり、自分の気持ちを素直に表現したり、純粋な気持ちで考えることができる。そして、自然の美しさや楽しさ、大切さというものを誰かに教えられることなく自ら気づく。私もこの講座で笹笛を吹いたり、落ち葉や木の実で何かを想像したり作ったり、夜は寝転がって星を眺めたり、自然の楽しさや美しさを感じることができました。そしてそれは清里ではなく、私の住む身近な自然にもあることに気づきました。今どんどん消えつつある、身近な自然を守りたいという気持ちになりました。

SM(鳥取大学)

「実践」と「伝達」を心がけようと思います。鳥取には豊かな自然が沢山あります。その利点を生かして、面白いプログラムや企画を生み出していけたらなと思います。ただ、一人では出来ないのも、周りの人を巻き込みながら、一緒にアイデアを考えて、企画・実践していきます。学生だけではなくて、地域の人も巻き込んでいけるような自然体験プロジェクトを他の学生スタッフと一緒に出来たらと考えています。

今回の講座では北は北海道、南は沖縄と全国各地から参加していて、様々な地域の人と関わることが出来ました。この出会いを大切に、可能な限りその人の地元に足を運び、交流をしつつ、環境や自然との関わりについて一緒に考え、実行することが出来れば、より環境教育活動も広がっていくのではないかなと感じました。

AN(東京学芸大学)

私の中で「働く」ことに対してモヤモヤしたものがあつた。自分がやりたいことを仕事にする。本当にそれでいいのか？ 仕事の安定性、社会的立場、そういうものを考慮すべきなのか。「働く」とは生活のためにすることなのか。

今回の講座でさまざまな人の考えや人生観に触れて、考えが定まった。「今、何をしたいのか」を大切に生きていこうと思った。未来を心配しても、過去を振り返っても、ここにあるのは「今」なわけで、その「今」を一生懸命生きていけば後悔しない人生を送ることができる。人生に正解なんてない。実際にやってみないと分からないことだらけなのだから、自分が納得して進む道ならば遠回りしてもいいんだ、と考えるようになった。

YN(北海道大学農学院)

今回の講座を受けて、参加者が一番心に残るのは、楽しみながら参加者自らが行動し、何かを発見する時だということがわかりました。一方的に知識を伝えるだけではなく、参加者自身の事を受け入れ、その人がその時必要な気付きを得られるように、サポートできる人材になりたいです。その為に、私も参加者体験をして自分以外の視点で考える力を養いたいです。また、伝えたいメッセージがあるときは、相手の事を考えながら、時間や一つの考え方に縛られず、伝えることをできるだけシンプルにして、きちんと伝えられるようにしたいです。

今回の講座で学んだことや発見したこと、たくさんのを忘れず、芯のある人間になって専門分野の一流になりながら、自分以外も受け入れる力をつけていきたいです。その為にも、どんな時でも時間を作り、自分や周

りの人と向き合う時間を大切にしていきたいと思います。

KT(奈良教育大学大学院)

子どものための自然教育を、未来の自分の教育に組みこめないかな、と探るために、この講座に参加した。実際に自然体験をすることで、様々な感情を得た。夜の草むらで誰とも話さずに寝転がり、諦めた夢のことを思い出して切なくなった。夜中の星と天の川がただ綺麗で、素直な気持ちがぽんと出た。毎日の終わりの振り返りの時間、「自分がしたいこと」について自分にひたすら問い掛けた。グループワークの時に感じたモヤモヤの正体は何なのかと、議論をした。よくもまあ、こんなに自分と、そして相手と向き合おうとしたな、と思う。

MO(東京家政大学)

この講座に参加して感じたこととして、環境に向き合う姿勢と、人と向き合う姿勢はとても似ていると思いました。私達が普段、家族や友人と接する時のように、相手を思いやったり、関心を持ったりする気持ちは、環境を考える上でも共通していると感じたからです。人と接するように自然環境と接することができるようになれば、それこそが真の共存なのではないかと思いました。

私は来春から社会人となりますが、社会人になっても地域での環境教育に携わりたいと思っています。東京に住む子ども達にも、自然は決して特別なものではなく、身近なところにもみどりや生き物がいること・みんな自然とつながって生きているということに、気づいてもらえるような活動をしていきたいです。そのためにも今回の講座を通して、私自身が特に大切だと感じた「わくわくする気持ち」・「伝える」・「つなぐ」ということを、さらに自分の中で磨きをかけ、高めていきたいと思っています。

KF(東京家政大学)

私はこの講座で、改めて、自然がなければ人間は絶対に生きていけないということを実感しました。そして自然の大切さ、自然の中にいるときの充実感などをたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。インタープリテーションの体験や実践を通して、視点を変えると身近な自然でも感動できることを学びました。例えばどこにでもある葉っぱでも1つ1つを見てもそれぞれ色、形、感触などの個性がありとても面白いです。こんな小さなことでも自然に興味を持てば遠い世界の話のように思っていたことでも少しは身近に考えられるのではないのでしょうか。

また、講義を聞いて、“言った”と“伝わった”は大違いで、伝えたい人の興味、経験を考えて相手にチャンネルを合わせなければ自分の思いは伝わらないということも学びました。これからはなにかを伝えたいときに相手のことを考えて話すことが自然の大切さを知ってもらう近道になるのではないかと思います。

HN(OB)

今回の講座には原点を求めての参加でした。日々の暮らしの中で私にとって「たいせつ」が何かを忘れていないのではないかという不安から「Re.」もう一度という思いを持っていました。体験の中では、新しい物事の吸収というより、自分自身の課題の再確認や改めて気づくことなど、日々の振り返りをしていた感じがしています。

何よりの喜びは、10年前のこのレポートに書いた夢が叶っていたことです。ここまでたくさん遠回りをしたし、形は少し変わったけれども、夢を夢で終わらせないことが出来ている、しかも生活の中で私なりのインタープリテーションが出来ているのではないかと!という気づきは大きな喜びになりました。